特別寄稿

1951年とわたし

倉　澤　栄　吉※

My Activities in 1951

Eikichi KURASAWA

１．はじめに

長生きしているおかげで，50年以上も前の体験を書くことになった。研究調査の結果などをもとに，アカデミックな論文にまとめて報告するのが本誌の趣旨だと思うが，それだけの時間と能力がない。編集子に許可を得て，エッセイ風の「記録と記憶」に「事実と体験」を織り込んで，読者諸兄姉に読んでもらう「教育関係資料文の紹介」をさせていただくことにした。

題材は「ガリオア」での研修記録である。ガリオアとは，「占領地救済のアメリカ国家基金」の意味を表わし，「ＧＡＲＩＯＡ」と書く。昭和25年(1950年)，アメリカの占領軍（ＧＨＱ）によって，我が国の八大都市の小学校学童への完全給食が行われた事で知られている。この資金を使って，教育関係者を米国に研修見学をさせるという。(その第１回目に，大橋富貴子女史が行かれたが，具体的な報告を私は聞いていない。）第２回目，1951年正月～同年４月にわたる『３ヶ月留学』が実施された。当時，敗戦国日本は，食うや食わずの国状であって，名は「留学」だが，豊かな米国への旅は，母国の口減らしの一助となると思った人もいた。現在では想像することもできない。当時，アメリカに行くなどということは全く現実味のない話であった。(このガリオアの制度も，私どもの派遣終了後，６月に打ち切られた。)

ガリオアと同じくローマ字で略称された当時の‘援助’に，「ＩＦＥＬ，アイフェル」がある。これは“教育指導者養成機構”と訳され，日本全国の教育界から選ばれた人達(エリート)の国内養成機関である。アメリカから秀れた学者も招かれた。国語

※日本国語教育学会会長

教育の専門学者も入っていた。―ＩＦＥＬのため来日した人の一人に McCullough 女史がいた。この人に私はＩＦＥＬでも，渡米した後も，公私にわたって世話になった。Dr. Gray の高弟で，ＩＦＥＬの折 reading についての参考文献の教示を受けた。（このリストは渡米前の私に案内書となった。）

２．ＩＳＮＵ

SELECTED BIBLIOGRAPHY ON THE TEACHING OF READING
IN THE ELEMENTARY SCHOOL

1. Adams, Fay; Gray, Lillian; and Reese, Dora. TEACHING CHILDREN TO READ., Ronald Press, 1949.
2. Betts, Emmett A. FOUNDINGS OF READING INSTRUCTION., American Book, 1947.
3. Bond, Guy L. ADAPTING INSTRUCTION IN READING TO INDIVIDUAL DIFFERENCES., University of Minnesota, 1943.
4. Bond, Guy L. and Bond, Eva, TEACHING THE CHILD TO READ., Macmillan, revised, 1945.
5. Brown, M.E. et al. EFFECTIVE READING INSTRUCTION., McGraw Hill 1942.
6. Cole, Luella. THE ELEMENTARY SCHOOL SUBJECTS. Farrar and Rinehart, 1946.
7. Dale, Edgar. AUDIO-VISUAL METHODS OF TEACHING. Dryden Press, 1946,
8. Dolch, Edward. TEACHING PRIMARY READING. Garrard Press, 1940.
9. Durrell, D. D. and Sullivan, H., BUILDING WORD POWER IN PRIMARY READING., World Book, 1941.
10. Foster, J. C. and Headley Neith. EDUCATION IN THE KINDERGARTEN. American Book, Revised, 1948.
11. Gans, Roma. GUIDING CHILDREN'S READING THROUGH EXPERIENCES. T. C. Columbia University, 1941.
12. Grays, W. S. ON THEIR OWN IN READING., Scott, Foresman, 1948.
13. Hildreth, Gertrude. LEARNING THE THREE R'S. Educational Pubilishers, Revised, 1947.
14. Lamoreaux, Lillian and Lee, Dorris May. LEARNING TO READ THROUGH EXPERIENCE. D. Appleton Century, 1943.
15. McCullough, C. M.,;Strang, R. M.,; and Traxler, A.E., PROBLEMS IN THE IMPROVEMENT OF READING, Chapters 3,5, and Appendix D. McGraw Hill, 1946,
16. McDade, J.E. THE ESSENTIALS OF NON-ORAL READING., The Plymouth Press, 1941.
17. Mckee, Paul., THE TEACHING OF READING. Houghton Mifflin, 1948.

Page 2.....Selected Bibliography on the Teaching of Reading in the Elementary School.
18. National Conference on Research in Elementary School English. READING IN THE INTERMEDIATE GRADES. Scott, Foresman, 1941.
19. National Council of Teachers of English. CHILDREN LEARN TO READ N.C.T.E. 211 West 68th street, Chicago, Illinois, 1949.
20. National Society for the Study of Education. READING IN THE ELEMENTARY SCHOOL. Part II, 48th Yearbook, University of Chicago Press, 1949.
21. Progressive Education Association. TEACHING READING IN THE ELEMENTARY SCHOOL. American Education Fellowship, New York, 1941.
22. Russell, David H. CHILDREN LEARN TO READ. Ginn, 1949.
23. Witty, Paul and Kopel, David. READING AND THE EDUCATIVE PROCESS Ginn, 1939.
24. Witty, Paul. READING IN MODERN EDUCATION. Heath, 1949.

私どもは，1951年の正月２日に文部省に集合。同年４月13日に横浜港に帰着した。一行全員20名，その中には，学校経営，カリキュラム，視聴覚教育等の専門家の他，学校図書館の久米井東氏もいた。初等教育では，算数の磯部唯之氏（広島大学付属小学校）がおり，この人と二人で旅をすることが多かった。

全体で行動するのは，サンフランシスコ及びワシントンにおける「オリエンテーション」の外，私立ニューヨーク大・コロンビア大学・ダルトンスクール・シカゴ大学等で，専門領域につきそれぞれ単独行動をすることになる。役に立ったのは，この各自の希望が尊重されたことである。本稿では，この個人体験についての報告を中心として回想しよう。そのきっかけは現在の私に残っていた一枚の新聞紙である（写真記事）。

1951年２月26日の私の日誌にも，この，地方新聞に，書かれたＩＳＮＵの訪問の記事が感動的に述べられている。単独で小都市に赴き，予想外の歓迎を受けた体験が，不可忘の印象として，ここに引用した写真を，立体的に浮き上がらせた。

訪米前の私の予定には「ブルーミントン」の地名はなかった。思えば，２年間通った千葉から転身，1949年に東京都庁に勤めることになって，私は，有楽町の役所に近いＣＩＥ図書館で言語や教育に関する文献を漁っていた。米国行きが決まった後，会いたい人物何人かをリストアップしてもいた。その中に，Gray（ＯＥＣＤ），Betts（シカゴ大），Durrell（ボストン大），Gates（ゲーツ・シリーズ）などの大物に会えるかしら。シカゴ，ニューヨーク，ボストン。後半の西海岸で

A BOOK ON EDUCATION is shown to Eikichi Kurasawa by Miss Margaret Cooper. The Japanese educator is at Illinois State Normal University this week studying educational practices.

PANTAGRAPH PHOTO

Japanese Educator Likes ISNU Method

Students Listen, But Can't Talk In Japan

"I think students should talk more and not listen so much, in Japan we only listen."

Eikichi Kurasawa, professor of education at Chiba Gakugei University in Japan, said this in an interview Monday at Illinois State Normal University.

"In Japan we teach through a leader and there is no free discussion and easy response as you have here."

Visits U.S. Schools

Mr. Kurasawa, who has visited several universities in this country including Columbia University, Boston College, and the University of Chicago, is at ISNU this week to get an over-all picture of education, particularly the teaching of reading and language arts.

When asked what he thought of ISNU, Mr. Kurasawa said with a Japanese accent:

"I like here very good. It is quiet. Other schools I visit in city was very noisy. Japanese schools are quiet, also."

Observes Class in Action

The Japanese educator spent part of Monday morning in the child growth and development class taught by Miss Margaret Cooper, head of the Elementary Education Division at ISNU, listening to her lecture and observing the college students' reactions.

ISNU will be the only teachers college he will visit while in this country.

When Miss Cooper put a student in charge of the class while they were out of the room the Japanese was amazed:

"A student in charge. In Japan it would be very noisy."

On Three Months Tour

Following his tour of several classes at ISNU this week, Mr. Kurasawa will return to the University of Chicago.

From Chicago he will go to Phoenix, Ariz., and to Los Angeles, Calif., where he will visit the University of California at Los Angeles and the University of Southern California.

He will complete his three month tour of American educational institutions at San Francisco late in March and will return to Japan.

は，ＩＦＥＬで世話になったマッカローさん，ストリックランド女史，ヘファナン教育次長などの顔々。

ＩＳＮＵに知った人はいない。(あとでわかったことだが)「ブルーミントン市」は二つあって，私の提出した希望書は，イリノイではなく，オハイオ州立大であったのだ。が，行ってみてよかった。

この町は，人口20万程の静かな落ち着いた小都市で，大学は郊外にあり，盲・聾・肢体不自由・知的障害の子ども達のメッカであった。私はこの訪問で大歓迎を受けた。記録には，「この大学の総長が陣頭指揮で」とあり，「朝晩の送り迎えに車が―公用車？が来てくれる」「昼食は大学で用意して」くれた。さらに，「新聞記者の取材」である。それにおまけがついて，翌日は，「大学の創立記念式」があり，来賓として招待してくれた。

この至れり尽くせりの歓迎は，日本人の教育関係者などが訪れたことのない未見の地のためかとも思った。が，最近完成したばかりの「近代的設備による特殊教育施設」なのであった。私のテーマ「elementary reading」と直接の関係がなくとも，資料を集め写真に撮ることができなかったことが大いに後悔された。翌27日には，教育委員会の車で隣接の農村の小規模学校に訪問することができて，一人旅の寂寥などは全く感じられなかった。

この写真に見る Margaret Cooper 女史に筆者は「親戚の若者扱い」にされた。そのうえ，ISNU Method 伝授を受けた。そして，訪米のいきさつなども具体的に聞かれたので，身分（都教委）などを示すことが出来ず，前職の「千葉師範，千葉大」を名乗ってしまったらしい。

３．教科書・学習書

ニューヨークやシカゴで少しばかりの余暇ができると，私は教科書会社を訪問した。教科書や学習参考書，ワークブック等の類は，現地に行ってみると，驚くほど多い。発行会社も数多く，半年や一年では廻り切れない。幸い，ＣＩＥの図書館で読み，注文し，入手した参考図書で会社名や所在地を知ることができていたので，幾つかの会社を訪れることができた。その主な会社は次の通りである。

私は，プリマー・プレプリマーなどの学習書を手にして少なからず喜んだ。こ

会社名	主な書名（代表著者）
Scott, Foresman and Company	"Think and Do Book" (Williams, S, Gray)
Macmillan Company	"A Preparatory Book" (Arthur, I, Gates)
American Book Company	"Pre Primer Study Book" (Emmett, A, Betts)

注）「Basic」と言い「Preparatory」と言い，要するに elementary reading のためのものである。日本にはまだその概念や実物が充分に紹介されていなかった。

れらは，入手したあとすぐ，日本へ小包で送った。教科書会社からすれば，一訪問者に，しかも，外国人に乞われたからといって，終始好意を見せるわけにもいくまい。かなりの数の資料を用意してくれたのもガリオアという名のお陰であろうと思った。—これらの入手資料は，大部分1940年代の後半から，1951年にかけてのコピーライトとされたものである。

読みの指導の中で，我が国が従来経験したことがなかったプリマー・プレプリマーの段階における学習書・参考書は，その後の我が国の「入門期の指導」の開発に大いに役立ったのである。コア・カリキュラムに対する関心のきわめて高かった時期において，初等教育，幼年期・入学当初の学習指導の好資料として参考にすべき文献を，（数多く持っているというわけではないが，）教科書・学習書発行の会社に「おねだり」してかき集めた何十冊かの本が，私の家にはある。この文献群をどう整理し，どう役立てていくのか。私の怠慢がこの解決をはばんでいる。

4．1951年夏秋

1951年は，『言語生活』が発刊された年である。また，「戦後の国語教育の反省と批判」と題して特輯増大號『國語と國文学』が出た。これらは，帰国した私をかなりゆさぶったが，同時に新教育にはずみをつける自己責任をも感じたのであった。（全国大学国語教育学会編集の『国語科教育第一集』が発刊されたのは翌1952年である。）

私は，1951年秋になって，『国語の指導』（教育図書研究会）を出した。これがアメリカ土産の一つである。小学校の学習者達が使う「ワークブック」の一種である。「国語学習における単元的方法を採用しようとする良心的な教師」と子どもたちに使ってもらう100の「ことば遊び」の方法を示した。（ＮＨＫ教育テレビの「にほんごであそぼ」は，大人の言語文化志向のためのものだが，子どもが遊びな

がら学ぶ学習書として，カード学習，（実験学校と云われた東京都墨田区立梅若小学校で熱心に試みられた）と並んで，指導者に注目された書物の一つである。

1951年と言えば，ストリックランドの代表的名著とされている“Language Arts in The Elementary School”（Boston D.C. Heath and Company）が出版されたのがこの年。この本は，その後の読みの教育ばかりでなく国語教育全般に渉る学習指導の原点となった。Ruth. G. Stricklandの名は，私は米国では会う機会がなかったが，忘れることはできない。

そのほかに，1951年に刊行された本には，下のものがある。

○Edward William Dolch, PH.D. “Psychology and Teaching of Reaging”. Greenwood Press, Publishers.

○Willard F. Tidyman, Ped.D. & Marguerite Butterfield, M.A. “Teaching The Language Arts”. McGraw-Hill Book Company, Inc.

注）Edward William Dolchはイリノイ大学教授

春四月に帰国してまず読まされた本が『教育界人物地図』（上田庄三郎著，明治図書刊）である。五月に出来ていた。この中に「国語教育界」と題する章がある。山田，久松，垣内，芦田などを「旧権威は衰退し」，山本有三，保科孝一，西尾実などの「革新派が進出し」などと述べられている。そのほかに何十人という学者，文学者の名が出ている中で，石黒修，波多野完治，山本有三等の名前が挙げられている。それら長老や先達の人物月旦のあとに「国語教育の実際面も戦後は，新教育の線にそうて人物地図も変動しつつあるが，追放も小物に及ばずか，アプレゲールやニューフェイスは少ないようである。云々」として，千葉春雄，石山脩平，国分，今井，滑川，西原，輿水等の名が並び，その後に倉澤評を二頁にわたって書いてあった。その中に「渡米土産もコア連の人々とはだいぶん違うようだ」とあって，これには驚いた。